

Title	大工頭中井家文書(一〇)
Sub Title	On the documents concerning the Nakai (中井) Family (X)
Author	中井, 信彦(Nakai, Nobuhiko) 高橋, 正彦(Takahashi, Masahiko)
Publisher	三田史学会
Publication year	1969
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.42, No.1 (1969. 8) ,p.107- 118
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	史料紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19690800-0107

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

史料紹介

大工頭中井家文書

(二)

九月十五日 板伊賀守
勝重(花押)
中大和守殿
御旅所

中井信彦
高橋正彦

〔二三一〕板倉勝重書状

追而申候、土井大炊殿より金薄之手形我等所へ可参候、
御請取此方へ御上せ待入候、但貴所事多候ハんと存候
てぬし又五まで申遣候、相談候て御請取慥成便宜ニ言
伝御みせ待申候、頼入候、以上、

幸便候条一書申越候、其地御殿之御作事貴所下國候て一
応出来申由無其隱候、殊余之棟梁衆作事共貴所追ぬき早

速御殿出来候由具立御耳候而一段御機嫌能御座候義可御

心安候、此方之儀 禁中御築地も一両日中出来候、五
左衛門事外精入候何事も思召之談合申事兼是亦可御心安

候、上様御立十九日ニ相定候、内々其御心得諸事御由断
有間敷候、猶以此方御用之事可承候、恐々謹言

〔二三二〕松平定勝書状(折紙)

猶々鉄炮念入之由大慶ニ候、以上

府川源太所へ書状殊六匁之鉄炮五挺給候、就中稻富好申
当勝候由猶以祝着候、方々御勘定御苦勞令推量候、恐々
謹言、

極月廿五日 松隱岐守
定勝(花押)

中井大和守殿
御返報

〔二三四〕土井利勝・井上主計頭書状 写(折紙)

猶々、永信州一所不被罷有候間加判無之候、以上

去六日之御状令拝見候、然者大坂御本丸御殿御材木入札

被申付落札被差越候則令披見候、將亦檜材木并松ふなし
し、小野宗左衛門手前可在之由承候、幸之儀候、惣左手
前材木目録を取有次第可有御遣候、右之目録此方へも可
有御越候 委曲嶋越前松右乃可被申候、恐々謹言

六月三日 鈴木遠江（花押）

中井大和様
人々御中

〔二三六〕 観音寺朝賢書状^①

猶々、舟之儀急度遣可申候、以上

如仰此間者不通御目無音背本意存候、中納言様就御下國
御目見ニ罷上候、尤少々以參上可申入候、將亦くれ木舟之儀
ニ付而、板伊州様乃之御折紙拝見申候、此中も舟數多ハ
不入由來申候付而、舟少つゝ遣申候、くれ木出申候ハ、
無由断舟多遣可申候、恐惶謹言、

三月朔日 朝賢（花押）

〔タワ書〕

△鈴織部様
小野惣左様 御報

觀音寺

一筆申入候、然者大坂御城御本丸御指図被仰付候ニ付而、
有増致指図上ヶ申候処ニ御材木之支度為可然ニ致指図上
せ候へ由御年寄衆被仰付候ニ付而致指図進候、究ハ不致
候へ共先比指図を以御材木之注文可成候、尚指図究次第
跡乃可申入候、委細者越前殿乃可被仰入候条不能細筆候、
朝

恐惶謹言

〔註〕 ① 観音寺は近江国栗太郡にある天台宗の名刹、朝
賢はその十代で、慶長五年住職となつた。

〔二三七〕 大坂御長屋材木之入札

大坂御長屋御村木之入札

一四拾壹貫五百六拾貳匁二分

一四拾貫貳百八拾目

一三拾九貫五百九拾九匁七分

一三拾九貫四百七拾五匁五分

一三拾九貫百目

一三拾八貫九百七拾三匁

一三拾八貫九拾八匁五袋

一三拾七賈五百六拾四

一三拾六寶五百九拾五枚

一三拾六

一三拾六貫七拾四

一三拾六貫九匁

一三拾五貫九百三拾五匁

以上

十一月十九日

大工頭中井家文書

〔二三八〕 彦坂重紹書状（折紙）

猶々、大久保右京亮殿へ状二通遠山將監へ状一通頬越候間被相届可給候、以上

先月廿五日之芳札令披見矢倉久右衛門二被申越候口上之

先月廿五日之芳札令披見矢倉久右衛門ニ被申越候口上之
通も致承知候、然者当地大工之内御定ニ違候作事請取仕
立御法度背こと三人之組頭共相達候ニ付背候大工別紙ニ

書付被差越候、右背候大工忠左衛門仁兵衛召寄令僉議候

之處背之儀無相違之由申二付兩人共二籠舍申付候、次大

工惣代ニ大工中間として古來より扶持遣候処作法を破扶持

不出大工有之由組頭串二付是又遂穿鑿發頭人在二三人也

籠舍可申付旨得其意令僉議候、委細之儀久右衛門尉可視

申達候、將亦其許二而毛御法度背傾大工有之而核倉內膳

正殿江被窺其上雨宮奴州江被相幽
丙子日五一日移篋

書徵申付候由總面之追令有知候爰元三而晉告日仲候不二
未、右之二故三考出釐丁日十之間丁有其脚心得疾、恐之

其在右之日數有若出箭口目作之間可有其微小得便

彥老岐守

四月四日

彦壹岐守
重紹
(花押)

〔追記〕
「寛文十戌年」

中井主水殿

御返報

〔二三九〕 五畿内及近江高役御免の大工

杣木挽人数の覚

五畿内并江州六ヶ国高役御免の大工杣木挽人数

一山城国 大工千七百四拾七人 木挽千三拾三人

一大和国 大工千七拾武人 杣木挽百三拾人

一和泉国 大工四拾武拾八人 杣木挽百四拾壱人

一河内国 大工百九拾四人 杣木挽卅武人

一摂津国 大工八百三拾四人 杣木挽千四百人

一近江国 大工七百五拾武人 杣木挽弐千九百拾七人

六ヶ国

惣大工数 五千弐拾七人

六ヶ国

惣杣木挽数 五千六百五拾三人

右六ヶ国大工杣木挽高役之儀寛永拾弐年亥九月七日ニ如

前々之御赦免被仰出候ニ付大工杣木挽之作高之儀在々
庄屋と大工杣木挽之組頭と立合相改 従往古大工杣木挽
作り来候田畠之分則作高在々所々之庄屋手形を以帳面ニ
認候也、但大坂御陣以後新作之分は除之帳面ニ入不申
候、以上

〔二四〇〕 大坂本丸入用釘錆請取状

請取申釘錆事(鑄)

一五百三拾五本 七寸釘

一四百七拾五本 五寸錆

合千拾本

此遣所

五拾弐本者 寺沢志摩守殿丁場(九)関拔釘

弐拾六本者 同所関拔之錆

四拾五本者 松浦肥前殿丁場関拔釘

三拾六本者 同所関拔錆

百弐拾本者 大村松千代殿丁場関拔釘

九拾本者 同所閥拔之錠

百七拾本者 池田備中殿丁場閥拔釘

百五拾本者 同所閥拔錠

百拾本者 松平阿波守殿丁場閥拔釘

百五拾本者 同所閥拔錠

三拾八本者 松平長門殿丁場閥拔釘

式拾三本者 同所閥拔錠

メ千拾本閑錄共

右者大坂御本丸御堀西東両所から堀と水堀との境内之た

ら閑板遣申釘錠也、松平長門殿松平阿波殿寺沢志摩守

殿松浦肥前殿池田備中殿大村松千代殿此六人御下奉行衆

立合毎日相渡候、背壁を以仕上ヶ候、少も相違無御座候

所如件

寛永元子七月十三日 村野伊与

かぢ
久左衛門殿

山村与助

〔裏書〕
「右表書之通無紛候、弥段之儀者當年御矢倉多門立申釘

錠如弥段可被相渡候者也

大工頭中井家文書 (同)

寛永元九月十七日 日下部五郎八 (黒印)

堀 三右衛門 (直之)
(黒印)

北見五郎右衛門殿 加々爪民部少 (忠澄)
(黒印)

〔二四一〕 名古屋矢倉御長屋鍛治衆入札目録

尾州那古屋御城御矢倉御長屋鍛治衆入札目録

一六拾八石 二階御矢倉 六間二 弥左衛門

但御矢倉三ツ有

一七拾九右五斗 三階御矢倉 六間二 久右衛門

但御矢倉四ツ有

一三拾五石 御門二階分

四間 十一間半 同 人

一卅五石五斗 御門矢倉

四間 十四間二 同 人

一四拾五石五斗 御門二階分

四間 十四間二 久兵衛

一四拾壹石五斗 御矢倉

四間 十三間 同 人

一四拾石 御門二階分

四十式間 四間 久左衛門

一拾五石

三間二 十三間 彦左衛門

一拾式石六斗 式ノ丸御長や

十三間二 同 人

清左衛門

一九拾五石ニノ丸三階金手矢倉

十式間
四間

(又左衛門
彦右エ門)

奉行衆手形を以勘定仕候、仍如件

慶長十六

五月十五日

以上

寛永元年
九月十六日

山村与助
村野伊与

久左衛門殿
かち

〔右表書通無相違候理り本みえ候者也
(裏書)

〔二四二〕 銛かすかいの目録

遣申釘かすかい之事

一、三百四拾八本
七寸釘

右之内

四十八本
京極若狭殿丁場閥板ニ遣

百式拾式本
同修理殿
同

百七拾八本
松平筑前殿丁場閥板ニ遣

一、三百七拾五本
五寸ノかすかい

右之内

四十本
京極若狭殿丁場閥板ニ遣

百拾本
同修理大夫殿
同

武百式拾五本
松平筑前殿御丁場閥板ニ遣

右是ハ大坂御城ニノ丸堀之閥板ニ遣申候、御両三人御

まいる

久左衛門殿

堀 三右衛門 (黒印)

日下部五郎八 (黒印)

加々爪民部少 (黒印)

〔二四三〕 加々爪忠隆他二名連署書状 (折紙)

以上

此手形三枚鍛治之久左衛門所へ御届候て可給候、夕日此

方へ参候、恐々謹言

九月廿日

日下部五郎八
是好 (花押)

堀 三右衛門
直之 (花押)

加々爪民部少
忠隆 (花押)

中井大和守殿
人々御中

(ウワ書) 御所司代御状
(異筆)

中井大和様 五味備前守

〔二四四〕 五味豊直書状

今朝者御寿候由忝存候、北野へ寔不能会顔候、然者其方
參勤之儀、先度連署ニ而御老中へ申上候処 禁中御作事
御勘定隙明參上可仕旨、御奉書到来写信濃殿より申来候、今晚此方ニ而料理申
付候、御出待入候、以上

極月朔日

(切封ウワ書)

五味備前守

中井大和殿

(ウワ書)
中和州様

人々御中

〔二四五〕 五味豊直書状

以上

昨日者為歲暮之御祝儀諸白両樽被懸御意幾久忝存候、猶
期面謁之時候、恐惶謹言

十二月廿三日

(花押)

大工頭中井家文書 (2)

〔二四六〕 岡田将監書状

以上

山田長左衛門・石原清右衛門手代たれへ遣し候、今朝之
小遠州手形と御取替可被成候、御作事場へ御出候者、御
立寄奉待申候、万々面上ニ可得御意候、早々申留候、恐
惶謹言

三月七日

花押

岡将監

(ウワ書)
中和州様

人々御中

〔二四七〕 中井(五郎助)正純書状案(折紙)

以上

一書申入候、五畿内并近江国中大工田畠高役如前々被成
御赦免之間忝可奉存候、然者御藏入并御給人方大工田畠

(一一三) 一一三

之儀小前を以念を入相改、前々之通作高無相違書付上ヶ可被申候、自然少茂於有私曲者、以来曲事可罷成候、則可有其心得者也。

寛永拾式
亥十一月廿六日 中井五郎助
御在判

江州大工組頭
作右衛門殿へ

〔二四八〕 上下京材木屋連名申状

乍恐申上候

一上下京材木屋申上候上京下京之内ニ小引衆昔より材木やへやとい年中ひかせ申候処小引之かしら孫兵衛八兵衛七右衛門惣介彦一此五人之木引として京中之小引を北野へあつめ起請をかき神水をのませ材木やへやとい申、小引をとめ申候て座をこしらへ小引をひかせ不申候、京中ニ諸職人あまた御座候ニ前々より江戸駿河之御用を被仰付候ニ御役儀ニさへ罷出候へハ京ニテ職人ニ座と申儀ハ無御座候ニ小引衆はかり座を定ひかせ不申儀何ともめいわく仕候、此以前も度々引ちんなども抑留仕候時ね段を

あけかきちがへなど仕事も御座候、京中ニ例なき事を取立小引衆座を相定如前々ひかせ不申儀材木屋何とも迷惑仕候、右之五人之者被召出此以前之筋目をも被聞召京中心安職人やとい申事に被仰付被下候ハ、上下京材木屋難有可奉存候、以上 畠田町 堀川一町目
与右衛門（花押） 弥市右エ門 同喜一丁目
同喜右衛門（花押）

元和四年
十一月十九日 上下京材木屋惣中

西堀川七丁目

善八郎（花押）

堀川七町目

道六丁目林（花押）

同勝三兵衛（花押）

同宗四町目春（花押）

与右衛門（花押）

右之日安十三日ニ上申候へ共

出不申故重而申上候 以上

丸同 五町目
五郎右衛門（花押）
与太郎町右衛門（花押）

三条ふき屋町 理右衛門（花押）

同 与左衛門 中ノ町 大坂町（花押）

四条五右衛門 清立（花押）

同 あやのかうし町 六条材木町 助（花押）

九兵衛

〔二四九〕 上下京材木屋六名連名目安
乍恐返答申上候

右日安上候返答仕公事同日可罷出也

御奉行様

霜月廿日 伊賀（黒印）

孫兵衛

八兵衛

七右衛門

惣介

市方へ

一木引八組之衆材木屋手引ニ仕候義新儀成由御前へ言上被致候、全新儀成義ニ而無御座候、然者元和四年ニ木引衆組を仕引賃高直ニ取可申由被申候て材木屋へ木引壱人も不参候故材木屋共人々引申候処ニ木引衆大勢材木屋へ二三入まへ引道具を取りかせ申間敷旨被申候ニ付、伊賀守様へ言上いたし双方対決仕候。則木引衆 御公儀役相勤候間、材木屋之手引他国之木引ニひかせ申間敷之旨被申上候処ニ 伊賀守様御詫被為成候ハ 御公儀役相勤候義ハ木引ニ不限いづれの諸職人ニも飯米作料被下候故望候而も相勤申候、其上當 御代米銀両座之外ハ不被為仰付候間他国之木引にても手引にても材木屋に引可申旨被為仰付候、其後禁中様御作事御用之木引材木屋よりも出しう御公儀御用相勤申候御事、

一先年木引与三と申もの材木屋を弟子ニ取木引いたさせ候ニ付籠舎被為仰付候由被申上候 与三義ハおやかたといさかひ仕おやかたを打擲仕候ニより籠舎被為仰付候ど

承及申候御事。

此拵

一木引衆之内大勢材木屋を仕手木引に材木をひかせ商
売仕、却而材木屋之手引他國之木引とめ可申之由何共迷
惑仕候、御公儀御用之折節ハ何時にても材木屋より木引
出し可申候間被為聞召分先規のごとく被為仰付被下候ハ
難有可奉存候、以上

材木屋
長左衛門（黒印）

与兵衛（黒印）

庄八（黒印）

喜太郎（黒印）

加兵衛（黒印）

喜兵衛（黒印）

材木屋惣中

御奉行様

上下京

元和七年
酉二月十二日 中井伊豆（花押）

(二五〇) 中井伊豆、淀大橋小橋目録

淀大橋小橋目録

一拾壹貫目

入札請取高

一参貫三百七拾四匁三分 大橋やとい大工高

一式貫百目 大橋請取ニ渡シ

一百三拾六匁

小引

一式貫百拾七匁四分

一式貫百拾七匁五分

一三百九拾目

小橋作料請取共ニ渡シ
(大橋小橋大工衆
飯米方入用
吉橋拾六間分作料)

一五百式拾匁

一三拾式匁

一拾貫六百九拾六匁式分

(大工衆敷申候こやむしろ
又ハ小屋かけノ日用ちん)

又百拾匁ハ 残テ参百三匁八分

古キ小屋ウリ申候

二口合四百拾三匁八分 但酉七月十二日ニ上ケ申候

酉ノ正月より五月迄ノ日數目録

一八千八百拾四人

禁中

女御様同御下屋敷

以上

引残百六拾九石七升五合 作料之殘米

一壱万百四拾五人

大坂御城分

メ壱万八千九百五拾九人 壱人ニ付七升五合つゝ

此米千四百式拾壱石九斗二升五合

内

三百七拾九石壱斗八升 壱人ニ付式升つゝ飯米

別紙ニ勘定有之

残テ千四拾式石七斗四升五合 作料分

内

日数八千八百拾四人

三百九拾式石七斗 禁中分之

作料ニ渡し

壱人ニ付四升四合五夕五

同壱万百四十五人

四百八拾石九斗七升 大坂分ノ作料ニ渡

壱人ニ付四升七合四夕

二口メ八百七拾三石六斗七升

寄目録

大工頭中井家文書 (2)

飯米方之目録

(ツギ目)

一三百七拾九石壱斗八升 日数壱万八千九百五十九人

但壱人ニ付式升ツゝ

此払

一百拾八石壱斗八升 棟梁肝煎 ふちかた式升ツゝ、渡、

日数五千九百九人禁中大坂両所小日記有之

(ツギ目)

一百五拾式石七斗壱升九合 日数壱万三千五十人

台所之

めしつい

内禁中分ハ拾人ニ付壱斗式升三合ツゝ

同大坂分八十人ニ付壱斗壱升四合ツゝ、

残百八石式斗八升壱合 飯米方之残り

以上

寄目録

(ツギ目)

(一七) 一一七

(裏印)

一百六拾九石七升五合 作料之方

一百八石武斗八升壱合 飯米之方

二口合式百七拾七石三斗五升六合 残り分高

此払

一八拾六石四升三合 大坂上屋敷去年の

茂兵へ仁兵へニ渡手かた有

一百九拾式石三斗壱升三合

此銀五貫六百三拾四匁八分 石ニ付廿九匁三分おしこ
めて

内壱貫九百目伊豆ニ遣申候

引残而三貫七百三拾四匁八分此方へうけ取候

以上

元和七年 七月十一日 中井伊豆(黒印) (花押)

〔二五二〕 片山源右衛門書状 (折紙)

貴札辱拝見仕候、先以御無事目出珍重ニ存候、当御地も
別条無御座候、歲暮之御祝儀と被仰上下式具被懸御意添

奉存候、隨而 禁中御作事首尾能御仕廻被成去月十日ニ
御移徒御座候由先々御隙御明是又目度存候 当年御下リ
可被成所ニ御勘定以下ノ御相談ニ付御延引御尤ニ存候、
来年御下り之時分貴面ニ相積儀可得御意候、九月近所火
事之時分も被入御念貴札過分ニ存候、切々遠路之御心付
御礼不被申上候、恐惶謹言

片山源右衛門

極月廿七日

□□ (花押)

中井大和守様
貴報